

新市民会館の愛称について

【愛称】

シアター マド
THEATRE MAdo



（ 応募者による愛称の説明 ）

窓を積み上げた個性的な外観から着想。

丸亀市民会館が、人と人をつなぐ「窓」、人と世界（文化芸術）をつなぐ「窓」、独自の文化を発信する「窓」になることへの願いが込められています。

【 愛称の募集結果について 】

作品総数：677点 応募人数：526人 募集期間：7/1～7/31

【 愛称選考委員会について 】

愛称は、市内の高校に通う生徒や有識者を含むメンバー11名で選考しました。丸亀市民会館の基本理念や設計コンセプトを共有した上で、作品に込められた意味などを踏まえ、どの愛称がよいかグループディスカッションを行いました。高校生からは、自分たちが選んだ愛称が、今後50年以上に渡って様々な方に呼ばれ、愛されるようになってほしいと、自由闊達な意見が多く出ました。



【 選考委員より愛称「THEATRE MAdo」について 】

- ・人をつなぎ、発信するという開かれた意味が込められており、施設コンセプトにあっている。
- ・建物の表面に大小様々な四角がちりばめられている外観と、愛称がリンクしており、建物の印象を意味づける作品であるところがよい。
- ・「窓」の新たな意味を発信することで、丸亀市民会館ならではのアイデンティティが形成されていくことを期待したい。

【 選考結果について 】

■最優秀賞：「丸亀芸術劇場 M^マADO」 応募者：神奈川県藤沢市 中山 崇さん

※選考委員会等で検討した結果、採用した愛称に一部修正を加えています。

■優秀賞：「Theatre M^{シアター}MAL^{マル}TZ」 応募者：山形県酒田市 安田 龍太郎さん

説 明：音楽のワルツ「waltz」の頭文字を「m」にし、丸亀市の「マル」を表現しました。
人々が手を取り合い同じ歩幅で踊る「ワルツ」から、誰も孤立しない、切れ目のない支え合いを表現し、原点や故郷を意味する「ルーツ」から、たくさんの芸術体験によって育まれていく、豊かな人間性をイメージしています。

■優秀賞：「CLAP^{クラブ}」 応募者：丸亀市綾歌町 馬場 広貴さん

説 明：CLAP の頭文字に意味を持たせました。C:Connect（つながり）、L:Lifelong Learning（生涯学習）、A:Arts（芸術）、P:Playhouse（劇場）。文化芸術や生涯学習の活動を通して「つながり」が生まれ、みんなのCLAP（拍手）があふれる劇場に育てていきたいです。